

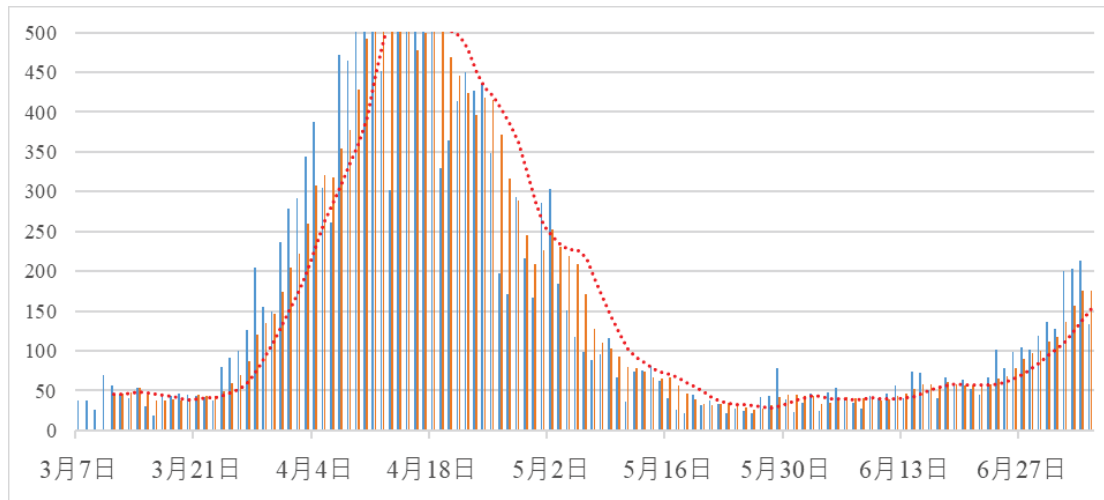
新型コロナウイルス感染症
流行シミュレーション作成事業
結果（2020年7月6日版）

群馬大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

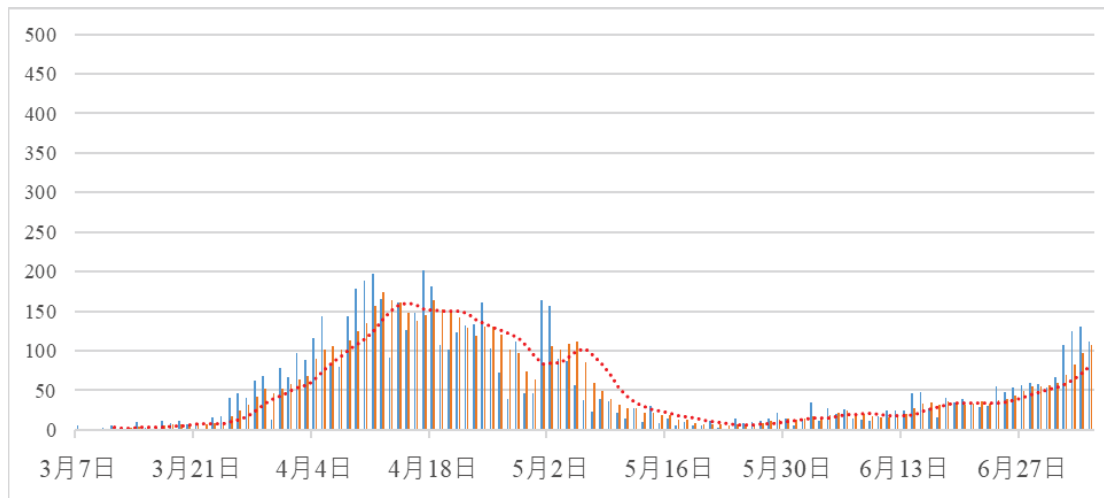
I 流行のリアルタイム評価

- 全国では6月中旬よりPCR陽性者の報告数が増加している。特に東京における増加が著しい。

全国



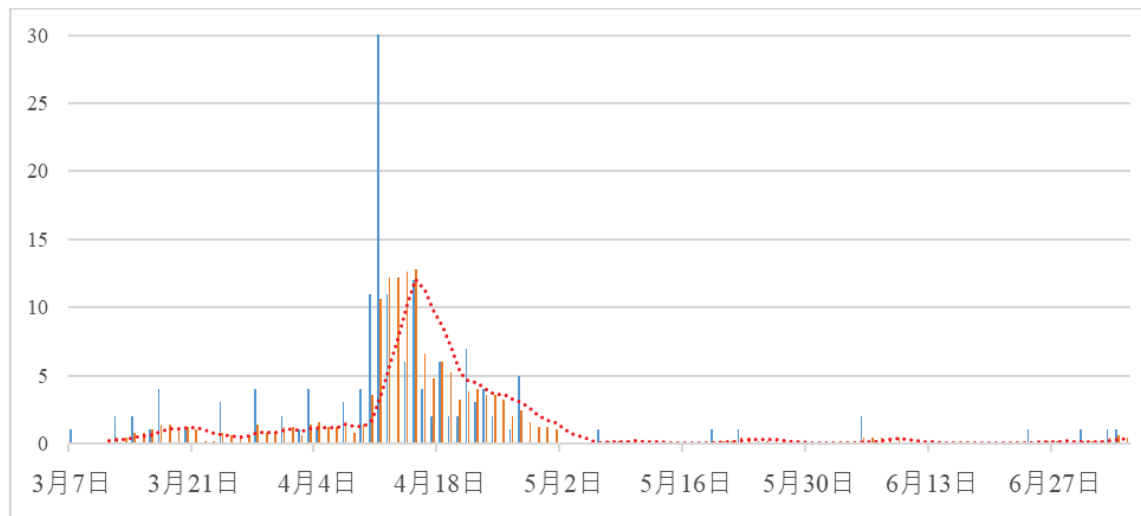
東京



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

I 流行のリアルタイム評価

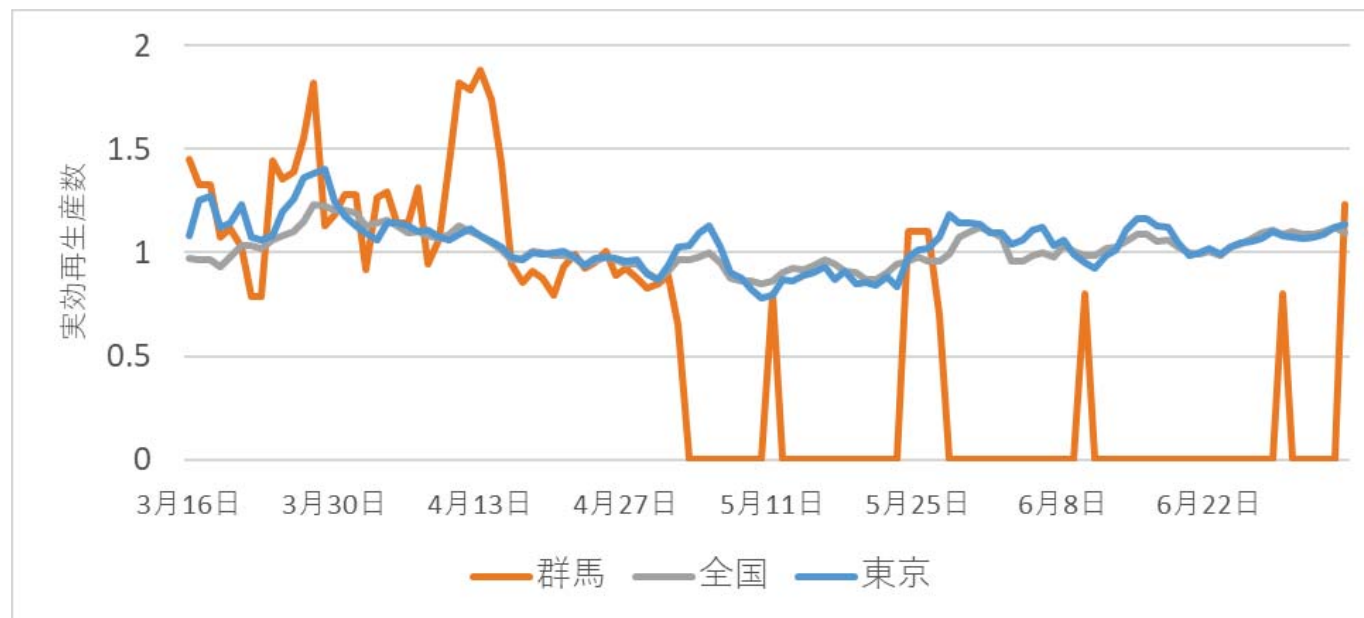
- 群馬県では、4月後半からPCR陽性者の報告例は著しく減少した。現在はときどき単発例の報告を認めるのみである。
- また群馬県ではクラスターも発生しておらず、今のところ流行しているとはいえない。



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

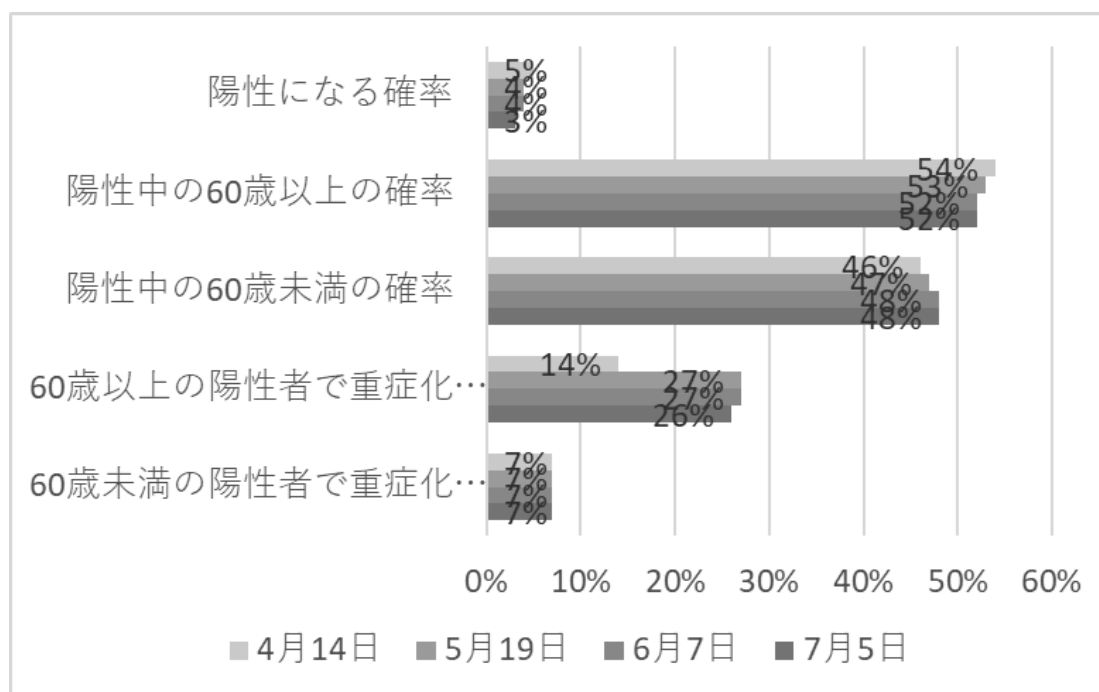
I 流行のリアルタイム評価

- 東京と全国は6月中旬よりPCR陽性者の報告例が増加したため、実効再生産数の推定値は持続的に1を超えている（つまり流行拡大あり）。
- 群馬県は0を維持していたが、最新値は瞬間的に1.23を示した（7/3と4の2名の報告による）。症例が少ない期間に変動が大きいことに注意。



II PCR検査結果予測

- 累積のPCR 検査件数からどのくらいの確率で陽性者が出るか推定(Rstan を使用)した。
- 陽性者が見つかる確率は 3%に減少。
- 陽性者中の60歳未満の確率は48%に増加。
- 60歳以上で重症化する確率は 26%に減少。



まとめ

- 現在群馬県では、PCRによるコロナウイルス陽性者はほとんど報告されていないが、東京では連日**100**名を超える陽性者が報告されている。
- 実効再生産数の計算では、東京と全国では持続的に**1**を超えており、流行が拡大しているといえる。群馬県では連続して**2**名報告されたため、瞬間的に**1**を超えたが、今後報告が続かない限り再び**1**を下回る見込みである。
- PCR検査の累積情報で評価した結果、陽性化・重症化する確率は減少していた。
- 現在の流行状況を考慮すると、必要な場合を除き東京との往来は控えることが望ましい。